

# ちば里山新聞

(第71号)  
 編集発行 NPO法人ちば里山センター  
 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148  
 ☎ 0438-62-8895  
 題 字 倉島 貴浩  
 (ワークホーム里山の仲間たち)

## ちば森づくりの会が森林xACT チャレンジ 2024 を受賞!

特定非営利活動法人ちば森づくりの会が森林xACT チャレンジ 2024 において、グランプリ【農林水産大臣賞】を受賞しました。受賞の報告を受け、理事長の林隆通様にお話を伺って来ました。



林 隆通 理事長

~~~~~

ちば里山センター佐藤理事長(以下佐):

受賞おめでとうございます。どのような賞か教えてください。

ちば森づくりの会林隆通理事長(以下林):

我々の活動によって1年間で整備した森林でどれだけCo2が吸収されるかという観点部門での入賞です。

佐: 受賞した団体には、大手の企業が名を連ねていますが応募に関して苦労した点などありましたか?

林: データ集めと資料の作成ですね。当団体は、千葉市森林組合の依頼も多く、森林組合からデータを提供していただき、資料をまとめるのが得意な会員の力で提出、受賞の運びとなりました。

佐: それは大変でしたね。他にも審査の対象となる項目もあるのですよね

林: 整備の取り組みについてです。これは今までの活動の中で実施して来たことが当てはまります。

佐: 他の里山団体へのアドバイスはありますか?

林: 森林整備にしっかり取り組んできている団体が多いと思いますが、団体内の更新は大切だと思います。今回の申請も、新しい会員が見つけたために申請できました。これから活動を広げるためにも新しい人材確保は必要です。

佐: ありがとうございます。

~~~~~



活動拠点のログハウス前にて

今回受賞の評価では、大都市圏で所有者が管理できない民有林も活動対象にしているところが高く評価されたようです。

取材に訪れた当日も、入会体験の方が、4名参加していました。朝礼の後、それぞれの活動地に分かれて、出向いていきました。

理事長の林隆通さんは、写真でもわかる通り車いすで活動しています。だからこそ、安全には人一倍気を使っています。ボランティア活動で怪我をしてはいけません。楽しみ

ながら、長く続けてほしいと語っていました。

特定非営利活動法人ちば森づくりの会はちば里山センター草創期からの団体で、主に千葉市森林組合と連携して、計画的な森林の管理を行っています。また、一方で千葉市指定里山地区のおぐらの森の整備、観察会など、市民が森に親しむ活動を行っています。

# 令和6年度活動団体支援金の支援先決定

今年度から復活した活動団体支援金については、申請期日までに13団体からの申請がありました。申請内容は、募集が10月半ばになったことも影響して資機材の購入、部品補充が大半を占めました。運営要領に基づき令和6年11月28日(木)に開催された第3回理事会において審査の結果、以下の7団体に交付することを決定しました。金額はいずれも30,000円で、11月28日以降の支出が対象となります。

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| ○特定非営利活動法人大山千枚田保存会 | 講師謝金等、資料作成費等         |
| ○市原米沢の森を考える会       | チェーンソー替え刃、草刈り機替え刃、燃料 |
| ○おとすれ山の会           | 刈り払い機 ベルト            |
| ○関さんの森を育む会         | 草刈り鎌                 |
| ○さんむフォレスト          | サンブスギ材               |
| ○いちはら里山エネルギー       | タケノコ堀り専用鍬            |
| ○特定非営利活動法人川島会      | チャップス、草刈り機・チェーンソー替え刃 |

交付決定団体は、申請内容に即した活動に利活用のうえ、期日までの実績報告の提出を厳守願います。また、次年度総会にどなたか出席のうえ、ごく簡単な活動近況報告をお願いしたいと思います。

理事会では今後の支援については、(1)令和7年度分は年度内に募集して、3月末までに決定し、4月5月の行事等に利用できるようにする。(2)千葉県緑化推進委員会の「森とみどりに親しむ活動支援事業\*」の当センター枠を同時に募集する。などの方向性を確認しました。これらについては、確定次第さとやま新聞、会員あてメール等でお知らせします。また、今回採択とならなかった支援金申請書についてはそのまま有効とし、来年度以降の審査対象とすることも確認されました。

\*地域市民参加型のイベントに特化した助成金で、1回あたり25,000円で3件募集予定。

この活動団体支援金は少額ですが、外部資金に頼ることなく当センターの収益事業や経費節減を原資として運営しています。今後も順調に継続できるよう、会員皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 第3回ちば里山カレッジのご案内

第3回ちば里山カレッジは、東京大学千葉演習林のヒメコマツ自生地、嶺岡県有林の樹齢100年を超えるヒノキ・スギ複層林の見学などをメインに実施します。なかなか行けない場所ですので、この機会をぜひご参加ください。

日時：令和7年1月30日(木)

日程：8:00 JR千葉駅発

10:15 東京大学千葉演習林 講義 ヒメコマツ自生地見学

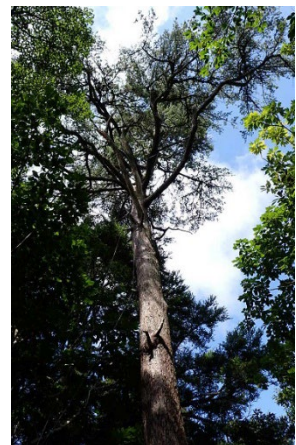
12:30 海岸砂防林の見学(南房総市和田町花園)

14:30 嶺岡県有林の見学(鴨川市)

15:30 農産物直売所(みんなみの里)

18:00 JR千葉駅

申込：詳細は ちば里山センターHPに掲載(近日中)



東大演習林のヒメコマツ



## 東葛地域里山団体意見交流会第4回

# コミュニケーションの大事さを痛感

## ～意見交流会で他市の事情を知る～

11月22日(金)15時から八千代市民会館で第4回東葛地域里山団体意見交流会を開き、15人(7市)が集まりました。

東葛地域の団体が実施の中心となった9月28日の第2回里山カレッジの振り返りについては、開催時間(一日あるいは、半日)。事例発表をもっと多めに、グループワークと総合討論について、野外視察を組み合わせるとよいなどプログラムについての意見がありました。また、ナラ枯れをはじめ木材の虫害もテーマにしてほしいなどの要望もありました。テーマについてはアンケートを取ってみるなどの意見が出ました。

令和4年～令和6年里山カレッジの東葛地域で開催した回は、開催市(松戸市、市川市、船橋市)の里山団体とテーマについて協議を重ね、会場等を視察するなどし、プログラムを積み上げてきた経緯があります。この意見交流会を通じて親しくなった皆さんと開催内容を検討し決めてきました。

東葛地域の里山団体の集まりを始めたきっかけは、令和5年度の里山カレッジを進めるにあたって千葉県内でも南部地域と東部地域、東葛地域では里山活動にそれぞれ独特の事情があります。里山団体で課題になっているテーマを取り上げてカレッジのテーマとしてはどうかという意見があり、里山団体を集めて意見の交流会を始めました。

東葛地域里山団体意見交流会の第1回は令和5年3月17日松戸市、第2回同年9月13日柏市、第3回令和6年4月15日鎌ヶ谷市でした。

東葛地域では都市部の住宅地にポツンと取り残された樹林地を次世代に残していきたいということをテーマに掲げた団体が運営の状況や問題点など市域の枠を超えて、意見が交流する場を設けることも必要と、意見を交流する機会として第1回意見交流会が始まったのです。

そこでは後継者不足、会員の高齢化などに伴う安全な作業のための資質向上、ナラ枯れ被害木の処理などが、共通の課題として認識されました。

こうした意見交流会自体が評価され、出された意見が里山カレッジのようなイベントに反映されることも可能だということから、この日は各次年度以降も地域の団体がそれぞれで里山カレッジのような里山活動に関するイベントを開催する方向性を進めていこうという機運になった印象を受けました。



八千代市の里山の森



松戸市野うさぎの森のバイオネスト



# 流山市おおたかの森にてロープワークによる伐倒

10月6日(日)流山市の活動団体NPO さとやまからの依頼でおおたかの森にてロープワークを活用した伐倒研修会を行いました。NPO さとやまからは8名程が参加してくれて、おおたかの森を案内してもらいました。おおたかの森はオオタカの営巣地として貴重な森ですが森の中に入ると右写真のような途中で幹折れした杉の木、ナラ枯れ枯死木が多数あり、散策路を立入禁止にしている場所が何箇所か見られます。今回はそのような状態を解消するために、ロープワークによる安全な伐倒作業を学び、市民にとって安全な散策路を確保しようとしているようです。



途中で幹折れした杉の木



ナラ枯れ枯死木の伐倒

ナラ枯れ枯死木の伐倒  
れるだけあって、切り株を見ると辺材部分は5cm以上腐朽状態があり、伐倒するには腐朽部分を除いた部分にツルを作る必要があります。さらに受け口はいつもより大きめに、追い口は慎重に切り込み口が少しでも開いてきたならハンドウィンチの牽引で倒すのが安全な伐倒方法です。

ロープワーク伐倒研修を終えてNPO さとやまの方から機材の使い方も分かってきたので、新しく機材を揃えて貴重な森の整備を進めていきたいとのことです。



~~~~~ つれづれごと ~~~~~

今年も僅かになり最後の71号となりました◆今年も多くのイベントがありましたが隔月発行でも載せきれませんでした。これはこれで良いかと思っています◆ものごとの結果より今ある事、これからの事が大事かと思っています。(Y.A)

森の中に入っていくと幹の途中で折れた杉が目立ちます。伐倒するにはどちらに倒れるか不安定な状態なので、幹が折れた部分にロープを掛けてハンドウィンチにて牽引することで、伐倒方向を安定させた状態にして、周りに注意しながら安全に伐倒しました。そのあと枯れて斜めに倒れて掛かり木となったナラ枯れ枯死木等を、ロープワークを活用しながら何本か処理しました。

最後に道路に近いナラ枯れ枯死木でキノコが付いたコナラの大径木の伐倒です。伐倒木の周りに邪魔になる杉の木や灌木を伐採後、道路側に倒れないようにロープで牽引した状態で伐倒処理しました。伐倒したナラ枯れのコナラは枯れて2年以上放置されてキノコが見ら

## 里山の風にゆられて ②6



ヤマラッキョウ<山辣韭>ヒガンバナ科ネギ属

ヤマラッキョウはまさしく山のラッキョウであり、食用には向かないようですが、晩秋の枯れ野に華やかな紫の花をつけてゆれる姿はなかなかの風情を醸し出しています。来年も咲くことを祈らずにはられません。

写真・文 赤松義雄 R6.11.6 成東東金植物園

### 入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日9:00~17:00)

E-mail [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>